

題：新聞や雑誌の有用性をめぐって

名前：

「情報化」時代が叫ばれて久しい。現代では携帯電話はもちろんのこと、パソコン、特にインターネットの必要性が極めて大きい。世界中の情報が集約され、瞬時に配信され、人々はインターネットを介して多くのことを知り得るようになった。

以上のようにインターネットの利便性はもはや無視できない。しかし、このことは新聞や雑誌の有用性を否定することはできないと考える。インターネットによる情報はその伝達の速さ故、誤っていることも少なくはない。私自身、インターネットで知った情報が後日新聞を見てみると誤りだったという経験をもつ。その反面、新聞や雑誌は多くの人の目を通して世の中に出されるため、情報の誤りは少ないはずである。情報、とりわけニュースに最も求められるものはその正確性だと考える。もしも新聞や雑誌が消え、ニュースを伝えるものがインターネットだけになってしまったら、正確な情報が伝わりなくなってしまう

うのではなからうか。

また、ニュースを伝える上で重要となってくるのは、そのニュースを伝えている者の意図であろう。ニュースは必ず誰かの手によって伝達される。そのプロセスにおいて、意図しようとなかろうと、何らかの事が加えられるはずである。それは、ニュースの中に伝達者の意見として加えられる、この意見が、インターネットにおいては、その匿名性故に、無責任な形で散れまわってしまうように思える。匿名というインターネット世界では、個人が各々の意見に責任を持たないのではなからうかということがある。無責任な意見を伴ったニュースは信用性に欠けるであろうし、時として重大な危害を加えてしまうこともあるだろう。その点、新聞や雑誌は紙面という形で残るため自らの意見に責任を持つだろう。

以上二点より、私は新聞や雑誌の必要性を訴える。瞬時に情報を得られるというインターネットの利便性だけにこれらの有用性を否

定すべきではないだろう。

1800字